

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

お世話になります。中学のコーチをしておりますが、ローカルの試合でのことです。

生徒が左手を骨折し、サービスのトスが上げられないので、監督会議の時にその旨を伝え、ラケットに乗せ、一度バウンドさせたボールを打ってサービスをしていました。それを見た相手の監督が、それはダブルフォルトになると言われたので、「競技規則に片手しか使えないプレーヤーはラケットで2度打つことが出来るとあるはずですよ」と答え、ハンドブックを見て頂きました。するとその時は「知らなかった」との返答でしたが、またベンチに来て、「解説の『その判断はレフェリーが行う』とあるので、今日はいいが、中体連の県大会・ブロック大会ではわからない」と言われました。

『解説』にあるレフェリーの判断は小学生等のラケットでもトスが上げられない場合、一度バウンドさせて打つことが可能だと理解しておりましたが、間違っておりますでしょうか？ また、ラケットを用いてのトスには、ラケットに乗せたボールを放り投げ打つ（サービス）たり、ラケットに乗せた後、一度バウンドさせてサービスをすることの他にどのようなやり方が可能でしょうか？

質問ばかりですみませんが、よろしくお願いします。

Answer

片手しか使えないプレーヤーは、サービスを行うためにラケットで2度打つことを認める。

小学生等でラケットでもトスが上げられない場合、有利にならない方法であれば、一度コート又はアウトコートにバウンドさせ、弾んだボールでサービスすることも認める。

2つの判断をレフェリーに委ねています。

この度のご質問は、「解説7」に書いてある通りですが、この度は監督会議の席で左手を骨折しているので左手の使用が出来ない為の旨を伝えて了解を頂き行っていることから間違っていないと思います。

今回の相手方（主催者）の監督さんは、他の雑用等で監督会議に出席されてなく監督会議の内容を聞かれてなかったのではとの推察することと、現在の競技規則の「解説7」の内容をご存じなかったようですね。

ところで、かつてご質問の様な子供達がソフトテニスをしたくても出来ないとの質問が有り、審判委員会で検討した結果、ソフトテニスをしようとしている仲間を失う事はとても残念なことであり、それより

も、片手が使えない仲間にもチャンスを与えて一人でも仲間を増やす方法を考え、有利にならない方法であるならラケットの上のボールをコートあるいはアウトコートに一度落として打つても有効とする案が出て、現在のルールに辿り着いた様に思います。その結果2000年（平成12年）までの「片手しか使えないプレーヤーはラケットを用いてサービスのトスを行うことが出来る。」を、2004年（平成16年）のソフトテニスハンドブックに改正した時に「片手しか使えないプレーヤーは、ラケットで2度打つことを認めており、片手しか使えない小学生等でラケットでもトスが上げられない場合、有利にならない方法であれば、1度コートまたはアウトコートにバウンドさせ、

弾んだボールでサービスすることも認められる。その判断はレフェリーが行う。」と解説で説明をしています。と言う事で、小学生等の等を拡大解釈されたと考えられます。



従って、ラケットを用いてのトスには、

- ①ラケットに乗せたボールを放り投げ打つ
- ②ラケットに乗せた後、一度バウンドさせてサービスを打つ（ラケットで2度打つ）

かのいずれかの方法と考えます。

いずれにしても大会開催前にレフェリー（審判委員長、副審判委員長）にどの方法が認められるのか確認を取られることをお勧めします。

ここでお願いですが、公認審判員資格を取得された後も機会があれば審判員研修会等に参加されることをお勧め致します。それは、情報の収集と合わせて、競技規則等が変わったことを自分で確認することが出来るからです。宜しくお願い致します。

【関連規則】

競技規則第20条（サービス）、2、【解説7】